

# 連携医院のご紹介

今回は、段原ショッピングセンター近くで地域に根ざし、皆様に心から信頼されるかかりつけ医を目指す「だんばら耳鼻咽喉科クリニック」の岡本よし恵院長にお話を伺いました。



岡本院長とスタッフ

## だんばら耳鼻咽喉科クリニック

〒732-0814  
広島市南区段原南 1 丁目 3-53  
イーストビル1F  
電話 / 082-263-4133  
院長 / 岡本よし恵  
診療科目 / 耳鼻咽喉科



プレイルーム

仕切りのある  
ネプライザー治療台

### ○いつ開業されましたか。

出身は広島で、広島大学医学部を卒業後、耳鼻科の専門医として勤務してきました。主人の転勤とともに、東京、沖縄などの他県等の病院勤務を経験しながら、いつかは地元での開業をと夢見ていましたが、出産・育児を契機に2016年10月に開業しました。

### ○開業されてから今までの事を教えてください。

段原地区は、再開発でマンションが立ち並び若い世代が増えていますが、地元の高齢な方なども多くおられ、幅広い年齢層の方が来られています。開業して3年ですが、お腹にいた赤ちゃんが今では歩いて来院されるなど経過や成長を感じられ、同じ患者さんに長く関わらせて頂くことで、地域に定着していると感じうれしく思っています。

### ○力を入れている事など教えてください。

耳の聞こえに関して、聴力検査が困難な新生児や幼児の聴力検査が出来るように歪成分耳音響放射検査(DPOAE)の機器を導入しました。また、補聴器外来を設け、耳鼻科の専門家としての立場から丁寧に対応しています。補聴器への抵抗を感じられる方は多いですが、最近の補聴器は驚くほどお洒落なものや小型化され目立たないものなどあり、また聞こえることによって刺激となり認知症の悪化予防にもなるため、より身近に気軽に相談してほしいと考えています。

### ○毎日の診療で大切にされている事は何ですか？

外来に来られたら、その患者さんの訴えを良く聴き、求めている事に対して応えられるよう、その日のうちにできる検査や治療は出来る限り行っています。また、病気の見落としや診断ミスなどをしていない事や、より専門的治療が必要になったら専門科へ紹介を速やかに行うことなど患者さんの立場に立った医療を心掛けています。患者さんの診察に集中して行えるのも、病院スタッフの心配りや対応でカバーしてもらっているからこそと思ひ感謝しています。

### ○県病院に一言お願いします。

いつもお世話になっております。急性疾患や手術適応の患者さんに迅速に対応していただき感謝しております。他診療科疾患の場合でも、快く対応していただき大変心強く思っております。



イーストビル1階にあります

### 【取材後記】

天井が高く、全面ガラス張りですが差し込むバリアフリーの院内で、海が好きな院長は、クリニックのマークに耳の聞こえがよい「いるか」をモチーフにされたり、院内の壁に魚が泳いでいたりなど、清潔感のある明るい雰囲気クリニックでした。

# もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。  
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

## 泌尿器科

教えて



## 血尿はカラダの赤信号

専門診療医による得意治療を紹介いたします。



泌尿器科  
主任部長  
梶原 充

### ◆血尿について

健康診断や人間ドック、病院での尿検査で「尿潜血陽性です」とか「おしっこに血が混じっています」と言われたことはありませんか？また、オシッコをしていて「あれ??赤い!!!」と思った方はいませんか？



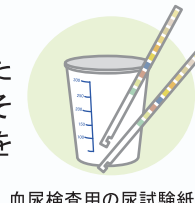
「血尿はカラダの赤信号」です。背後に泌尿器系の病気が隠れていることがありますので注意が必要です！！

### ◆血尿の定義

血尿には次の3種類があります。

#### ◎尿潜血

通常中間尿として採取された尿に尿試験紙をつけて、その色の変化で有無や程度を判定して診断します。



血尿検査用の尿試験紙

#### ◎顕微鏡的血尿

顕微鏡下での観察で尿中に赤血球を認めることです。世界的には、顕微鏡で400倍にした1つの視野に5個以上(≥5/HPF)の赤血球がある場合を顕微鏡的血尿と定義しており、年齢、性の区別はありません。



#### ◎肉眼的血尿

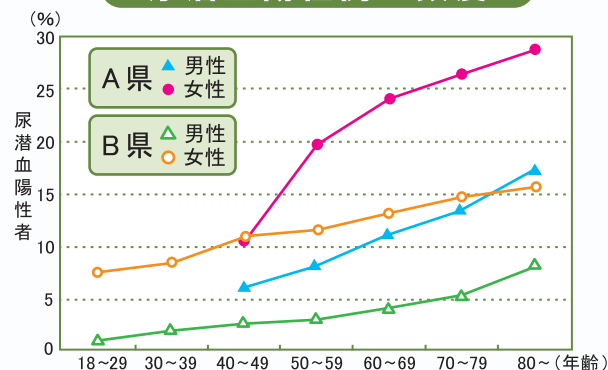
文字通り肉眼で見て赤い尿のことです。尿1,000cc中に血液が1cc以上混じれば、肉眼でも血尿、すなわち「赤い!!!」と分かります。

### ◆血尿の頻度

尿潜血や顕微鏡的血尿を指摘されることは珍しいことではありません。小中学生の健診での尿潜血陽性率は1.0%~3.1%で、その後、加齢により男女とも陽性率は上昇していきます。(下表参照)

尿潜血反応は一過性のことも多く、実際、経過観察では尿潜血陽性の約45%はその後の検査で異常が消失すると言われています。しかし、約40%では持続し、約10%は進行して蛋白尿が出現し、一部は腎不全に至る可能性があると言われています。一方で、肉眼的血尿の頻度はまれですが、非常に重要な病気のサインと考えられており、たとえば膀胱がんの80%以上は肉眼的血尿を契機として発見されます。

### 尿潜血陽性例の頻度



### ◆血尿の原因

血尿の原因は様々ですが肉眼的血尿の場合、25歳以下の若年者を除くと大部分に泌尿器系の病気が背後に存在し、肉眼的血尿の程度が強くなる程その可能性は高くなります。そのため成人の肉眼的血尿では、まず泌尿器科での精査が必要となります。



次ページに続きます→

## 県立広島病院からのお知らせ

### がん医療従事者研修会

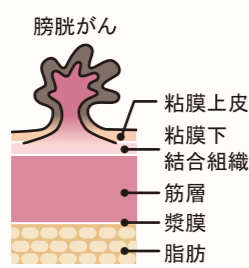
- 開催日 令和元年 11月12日(火)
- 時間 19:00~20:30
- 場所 中央棟2階 講堂
- テーマ がん医療従事者のための皮膚軟部腫瘍
- 座長 副院長/板本 敏行
- 講師 演題1 「皮膚腫瘍」  
皮膚科部長/田中 麻衣子  
演題2 「軟部腫瘍」  
整形外科部長/松尾 俊宏
- 対象 医療従事者及びその関係者
- 問合せ先 総務課管理係 (担当/岡田)  
☎082-254-1818 (内線/4272)

### 11月のがんサロン

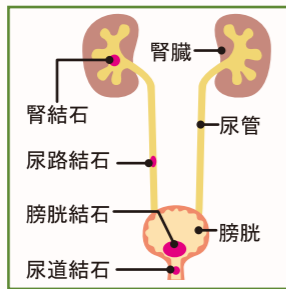
- 開催日 令和元年 11月20日(水)
- 時間 14:00~15:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- テーマ がん治療中の食事と栄養のヒント
- 講師 栄養管理科 管理栄養士/村上 麻美
- 対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族  
当院での受診歴は問いません
- 問合せ先 がん相談支援センター  
☎082-256-3561 (担当/橋本)

肉眼的血尿の原因

- 1 尿路上皮がん（膀胱がん、腎盂尿管がん）、膀胱がんでは80%以上に、腎盂尿管がんでも初期症状として約60%に肉眼的血尿を認めます。特に喫煙者はリスクが高く、電子タバコも例外ではありません。



- 2 腎がん
- 3 前立腺肥大症
- 4 腎動静脈奇形
- 5 腎梗塞
- 6 糸球体疾患
- 7 尿路結石症
- 8 出血性膀胱炎
- 9 特発性腎出血



- 10 薬剤性／抗がん薬（シクロフォスファミド、イホスファミド）、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、漢方薬（小柴胡湯）など

**ここに注意!** バイアスピリンやワーファリンなどの抗凝固薬服用中の血尿の頻度は、非内服例と変わりません。抗凝固薬服用中の肉眼的血尿の4人にひとりにがんが診断されたとの報告もあります。抗凝固薬内服中の肉眼的血尿でも、通常の精査が必要です。

（血尿診断ガイドライン 2013 など抜粋）

◆検査時の注意点

採尿前に運動をすると、誤って血尿やヘモグロビン尿（試験紙潜血反応を陽性にする）となることがあります。採尿前は激しい運動は避けましょう。また、外尿道口周囲の付着物や汗、体液が検尿コップに尿と一緒に混入してしまうことで誤って尿潜血や尿タンパクを指摘されることがあります（偽陽性と言います）。検尿にはそれらを含まない中間尿が適切とされています。さらに、採尿時には外尿道口を男性では包皮を反転させて

清拭して、女性では温水洗浄器トイレ（ビデ）で清拭をして、中間尿を採取することが大切です。



◆病院での検査

泌尿器科では、尿検査のほかに超音波検査（エコー）を行います。超音波は、痛みもなく簡単にがんや尿路結石の有無などさまざまな情報が得られる有用な検査です。なんらかの疾患が疑われた場合、さらにCTやMRI、採血、膀胱鏡などの検査を行います。特に肉眼的血尿は重要な病気のサインで、喫煙者の場合では膀胱がんなどの疑いがあります。尿のなかに癌細胞が混じっていないか尿細胞診という検査を行います。膀胱鏡検査も必須ですが、近年では細くてやわらかいカメラ（細径軟性膀胱鏡）を用いて観察する施設が多く、痛みは少ないです。



膀胱鏡検査イメージ

細径軟性膀胱鏡

◆血尿といわれたら?

いずれの病気にしても、早くみつかれば、それだけカラダに負担の少ない、根治的な治療が可能となります。また、泌尿器科での検査、治療後も長期のフォローが必要です。当院ではかかりつけ医の先生とお互いに連携しながら、包括的に切れ目なく患者さんやご家族を支え続けるように心掛けています。「**血尿はカラダの赤信号**」です。症状がないからと放っておかず、早めに泌尿器科専門医を受診することをお勧めします。

参考文献

- 血尿診断ガイドライン 2013/ 血尿診断ガイドライン編集委員会、東京、ライフサイエンス出版株式会社、2013.
- 梶原充・他 / 特集 薬剤投与と泌尿器科的副作用 - 泌尿器科医の必須知識 - 肉眼的血尿をきたす薬剤. 臨床泌尿器科、66、2012.



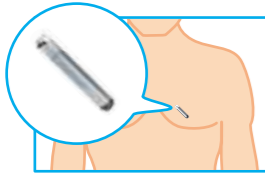
脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長 / 上田 浩徳

カンファレンスの内容をお伝えします!

植え込み型心電計 (ICM; Implantable Cardiac Monitor)

【循環器内科 / 小田 望】



ICM は手のひらにのる程小さく、容易に皮下に植え込むことが可能な機器です。その機能は不整脈の検知で、最長3年間・24時間モニタリングすることが出来ます。原因不明の失神患者に対して2009年10月より、また潜在性脳梗塞と診断された患者における心房細動の検知として2016年9月より保険適応となっています。

あらゆる検査を施行しても原因不明であった失神患者の約3分の2について、ICMにより診断が可能であったと報告されています。一方、潜在性脳梗塞

とは原因が不確定な脳梗塞で、その頻度は16~39%で、その大半は塞栓源不明脳梗塞と考えられています。潜在性脳梗塞の原因疾患、いわゆる「潜んだ塞栓源疾患」として潜在性心房細動が注目されています。心房細動が存在する場合は脳梗塞の再発リスクが高く、かつ発症するとその多くは重症となります。しかし、潜在性心房細動は通常の24時間ホルター心電図では同定困難な場合がしばしばあります。今回のICMの植え込みを行い、脳梗塞の原因疾患が心房細動であることが判明すれば、その後の治療が可能となります。当院でも行っております。



外科医の独り言...no.97

— 名医のセカンドオピニオン —

「たけしの家庭の医学」という人気番組があります。放っておくと怖い病気について、俳優さんの名演技でわかりやすく紹介する番組です。私も時々目にする番組ですが、時には誤解を与えかねない表現もあり、症状に心当たりのある人を不安に陥れるかもしれません。しかしこの番組は、病気について、少なくとも私が行う説明よりも視聴者にわかりやすく解説しており、それが人気のある理由かもしれません。

名医のセカンドオピニオンというコーナーがあります。ある症状でいくつもの医療機関を訪れても、異常なしと言われ、いつまでたっても症状が良ならず、ある専門医、時には総合医を受診してやっと原因が判明し、治療で症状が改善していく、という構成になっています。そして、その番組からは、なぜ前医は病気を見つけれなかったのかという不信感と、それを見つけた「名医」への称賛が窺われます。

先日の番組では、全身倦怠感と食欲不振で多くの医療機関を訪れたけれども、なかなか原因がわからなかった中年女性患者さんの例が取り上げられていました。全身倦怠感と食欲不振は、それこそ数限りない病気の一症状としてでてきます。この2つのキーワードで私のような凡人がすぐに考えるのは「肝臓でも悪いのかな?」です。日常診療の中で良く遭遇する病気から順番に疑ってかかるのは当然です。しかし、最初の医療機関で肝機能検査を行ったけども異常はありませんでした。次の医療機関では、心臓の異常が懸念され、心電図や超音波検査が行われましたがこれも異常なしでした。そうこうしているうちに頭痛が症状に加わりました。当然、次の医療機関では、頭部CTとMRIが撮られたけれどもやはり異常なし、ということで、しまいには精神的なものではないかと言われ、患者さんは途方に迷っていました。もちろん、心理的要因で様々な症状が出てくるのも事実です

が、そこに「名医」が登場してきました。「名医」は、患者さんの肝臓、心臓と脳は悪くないという情報を知っていました。また原因がわからなかったので様々な血液検査が行われており、その結果も知っていました。ある意味、前医より多くの情報を手に入れて診察に臨んでいます。さすが「名医」は患者さんの話を聞いていく中で、以下の三つの重要な情報を手に入れました。最近、映画を観ても泣かなくなった（涙が出なくなった：ドライアイ）。最近、自分では気づかなかったけれど（夫が気付いた）料理の味付けが濃くなっていった（味覚障害）。そして虫歯になった（唾液の分泌障害）。ここまで来るとさすがの私も「シェーグレン症候群」を疑いましたが、「名医」の演技も「そうか、そういうことだったのか!」としたり顔でした。そして「名医」は、より専門的な血液検査の結果を持って「シェーグレン症候群」と診断しました。診断がついたことで治療法もわかり患者さんは、病気から解放されました。

患者さんの話を聞くことにより、あるいは身体検査の結果から、可能性のある病気を絞り込んで、検査を行うのが保険診療の鉄則です。魚のいないところに糸を垂れていても魚を釣れません。勘と経験、そして魚探が必要です。最近、病気の診断に人工知能(AI)の導入が期待されています。人工知能は、情報が多ければ多いほど力を発揮しますが、食欲不振、全身倦怠感だけの情報ではAIといえども無力です。診断に繋がる患者さんの症状を上手に引き出す「技」を持った医師が、「名医」の条件の一つであることは間違いありません。そしてAIを生かすも殺すも医師次第です。



副院長(消化器センター長・緩和ケア科主任部長) 板本 敏行

第14回 地域健康フォーラムを開催しました!

10月12日(土)に当院の講堂にて「第14回 地域健康フォーラム」を開催し、約90名の方にご来場いただきました。

当院の医師3名が内科、外科の視点から「健康長寿を目指して栄養について考えてみませんか?」をテーマに講演いたしました。

当院は、地域の方へ最新の医療情報を提供し、健康増進に寄与することを目的に毎年このフォーラムを主催しています。

ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。



望月医師 卜部医師 眞次医師